

平成18年度 しらとり 事業報告書要約

平成18年度の課題

- 1 利用者が日々安心・安全に生活および利用できる建物管理と維持
・「子ども」が安心して、健やかに育つ環境を最重視
- 2 被虐待児個別対応職員常勤化(19年度～)配置による、個別支援・退所後の見守り支援の充実。
- 3 厚労省通達にあわせた、標準書式に基づく自立支援計画票の活用による利用者支援
- 4 府中市「要保護児童対策協議会」の関係機関として、地域における児童家庭支援の窓口を担う。
- 5 府中市子ども家庭支援センター「たち」との連携による市内子育て支援の拡充
・「しらとり」独自のサービスの確立・提供
- 6 府中市における新たなサービス事業所開設に伴う、地域支援においての役割分担、連携等の協議・試行。
- 7 新築10年を経たの建物・設備の現状把握、見直し、施設整備等の検証
・中長期経費計画の策定

平成18年度概況

母子生活支援施設

- ・退所世帯 13(公営住宅入居 6・アパート入居 2・他施設転出 1・結婚 1・その他 3)
- ・入所世帯 13(夫の暴力等 9・住宅事情等 2・その他 2)、更に重複する状況・傾向の内訳として、ドメスティックバイオレンス 9・若年母子 4・外国籍 2・不登校 1・児童の発達課題 1 に分類することができる。
- ・今年度在籍31世帯中、府中市からの受け入れが8世帯の他、保護実施機関は16市に及んだ。
- ・サービス自主評価(1月実施)、第三者評価(11月実施)
- ・個人情報保護および取り扱いについては法人一体で委員会を設け、対応した。
- ・2月21日、東京都指導検査が実施され、今後の施設運営に関して助言を受けた。(文章による指摘事項はなし。)

支援センター

- ・新規相談件数244件(うち虐待21件:前年26件) 前年より新規の相談が増えた。
- ・たちオープン影響で、オープンルームは前年に比べ196名ダウンだがしらとり近隣地区をフォロー(武蔵台・西原・北山・栄町・本宿・西府で76%)
- ・NPは春・秋・冬の3回実施(計62名参加) 終了後も自主活動しているグループが多く、組織化に成果

サービス事業

- ①トワイライトステイ事業
年間延5,794名(前年6,137名) 一日当たり19.6名
平均年齢は5.3歳(昨年と同様) 保育所・学童クラブへの迎えの他、各自宅への迎えを希望する世帯が増加
- ②ショートステイ事業
延人員は128名(宿泊 87・日帰り 41 前年144名)
実利用人数は38名19件 関係機関からの依頼が目立った(14名8件)
- ③母子(父子)緊急一時保護事業
実人員54名が利用 延520名(前年331名)
長期利用者が目立ち、また、夫からの暴力で利用が8件ある
- ④病後児保育事業
登録数76名 実利用は28名(前年38名)

館としての運営管理

- ① 毎月の訓練、上級救急講習・自衛消防審査会への職員派遣、夜間防災宿直マニュアルの整備、非常用備蓄の充実等、様々な対応により施設における防災意識・技術の向上に努めた。
- ② 警察の防犯指導に沿った来所者の把握、部外者の進入防止の意識を高め、安全な生活環境の維持に努めた。
- ③ 感染症予防のためのペーパータオルの設置等安全衛生のための環境整備を行った。
- ④ 各種研修に職員を派遣し、個々のスキルを高めた。
- ⑤ 第三者評価及び自主サービス評価を今年度も実施、利用者視点でのサービスを推進した。
- ⑥ 個人情報対策も法人全体での委員会を設置し対応した。

母子生活支援施設

母親に対する支援

- ① 利用者の定期面接(年2回)を行い、自立支援計画を作成し、実施機関との連携を図った。
- ② 心のケアへの専門力の活用(臨床心理士2名配置)「ミニマザーグループ」の実施(全9回)
- ③ 母親懇談会を2回に分けて実施(毎月最終金・日)したことで、利用者がより参加し易くなった。
- ④ 就業支援-ハローワークおよびチラシ情報の提供やパソコン・インターネットを活用した技能習得支援
- ⑤ 相談員としての専門性を向上させ、相談に対応できる職員体制を確立する。(諸制度・税制度・保健衛生等)

学童に対する支援

- ① 日常の保育や行事を体験することで豊かな感情を育んだ。
- ② 心理職と連携し、「ストレスマネジメントプログラム」を施設内学童保育児を対象に行った。
- ③ 長期休暇前に保護者説明会を実施し、学童活用内容を細かく伝達した。また子どもの様子について話しあい子どもを育てていくための協力者としての信頼関係を築いた。
- ④ 小学5年生以上の児童に対しては、学習・行事等において個別プログラムを計画・実施した。

乳幼児に対する支援

- ① それぞれの子どもにあわせた月案・週案をたて、基本的生活習慣のEた。
- ② 毎月1回の身体測定と健康診断、5月、11月のぎょう虫検査を実施し、健康管理に努めた。
- ③ オープンルームに参加して地域の子どもたちと交流をもった。6月にはつくろうデイ、10月には遊びデイを実施し、通園児との交流をもった。

府中市委託事業

子ども家庭支援センター

- ① 府中市子ども家庭支援センター「たち」の存在を踏まえ、連携を図った事例研究や各種研修等合同で実施した。
- ② しらとり内支援会議を開催(年間38回)し、情報の共有を図った
- ③ 新規相談件数は244件(前年212件) うち虐待相談は21件(前年26件) その他養護相談が前年より大幅に増加した(前年比3倍)
- ④ オープンルームは年28回開催 うちあおぞら6回ー黒鐘公園・武蔵台公園 1871名参加
- ⑤ NPプログラムは春夏秋冬3回実施(5月～7月・10月～12月・1月～3月)計30組62名の母子が参加

サービス事業

- ① トライワイトは年間で5,794名 一日あたり19.6名 16年度をピークにわずかに減少傾向がみられる。登録は167名うち実利用は144名 市内31町におよぶ
- ② 迎えの車輛はつくば観光に委託(2台契約)。接触事故はあったが、負傷者は出ていない。
- ③ ショートステイは、実績128名(前年144名) 実利用人数は38名で短期利用者が多かった。
- ④ 母子(父子)緊急一時保護事業は、19件520名と前年15件331名に対し延人員が大幅に増加。父子世帯は1件、また府中市依頼による成人母子利用が1件あった。

病後児保育

- ① 登録数76名 実利用は28名(前年38名)と登録数は変わらないが利用は減少
- ② 利用基準の検討見直しや職員への徹底に努め、問い合わせ時の混乱を防いだ
- ③ 面談時の細かい留意事項等の確認により当日利用のトラブルはなく対応できた
- ④ 事業そのものの対応にむけ、府中市と協議中